

「円空の添え絵展く円空のもう一つの業績く」

今年の白山開山1300年祭の関連特集として、毎号、白山文化に関する市内の博物館展示などを紹介しています。今回は、近日に開催する美並ふるさと館の特別展示「円空の添え絵展」をご紹介します。

円空のふるさと美並町

美並町は、円空のふるさとです。郡上では「円空さん」と親しみ深く呼ばれる円空上人（1632〜1695）は、瓢ヶ岳の山麓で生まれたといわれています。粥川の星宮神社の別当である粥川寺で得度し、白山をはじめ全国各地の霊山で修業し、一生涯に12万ともいわれる膨大な円空仏を彫りあげました。美並町にもたくさん円空仏が残っています。粥川のみならず、さと館には、初期から晩年までの円空仏93体を常時展示しています。円空仏の素朴さと微笑みを魅了しています。



▲八面荒神像 (美並町下田・西神頭家)

円空の添え絵とは…

円空仏はあまりにも有名ですが、円空は和歌や書のほかに墨絵も残しています。円空の墨絵はとても貴重な資料で、三重県志摩市片田の金剛院と同市阿児町立神の薬師堂のものがよく知られています。円空は42歳の時に当地を訪れて大般若経を修復しましたが、その時に經典の一部に墨絵を貼りつけたり描き添えたのが添え絵です。今回の特別展示では、これらの添え絵の中から代表的なものを選んで展示します。展示品の中には、初めて三重県外で公開となるものもあります。

添え絵のみどころ

円空が描いた添え絵の数は、大般若経の經典約600帖のうち片田の金剛院は58帖で、立神の薬師堂は130帖です。そこには釈迦如来十六善神像が描かれています。この絵像は、大般若経転読法会^{だいはんにゃんぎょうてんよくほうかい}で本尊として掛軸を祀ったり、大般若経の經典や經箱に描くことがあります。中央に釈迦如来と、脇侍の普賢と文殊菩薩、最前列に玄奘三蔵と深沙大将、その後ろに法涌と常啼の二菩薩を配し、周りを十二神将と四天王が囲む23体が描かれています。



▲庚申像 (美並町木尾・洞泉寺)

ここで興味深いのは、初めは經典と関係の深い釈迦十六善神

像23体がすべて描かれています。次第に省略されて数が少なくなり、最後には釈迦如来1体だけになります。仏像の描写も少しずつ簡略化しており、描き始めた頃と終わり頃では大きく違っています。円空は神仏を描く中で宗教観を理解し、描写を少しずつ変えていったようです。その後に円空仏を簡略化するきっかけの一つになったと考えられています。



▲円空が描いた大般若経の第三百二巻の添え絵 (志摩市片田・金剛院)

～白山開山1300年特別展のご案内～ 「円空の添え絵展」

会期 10月7日(土)～11月5日(日) 月曜日休館
時間 午前10時～午後4時 (入館は午後3時30分まで)
会場 美並ふるさと館 (美並町高砂 1252-2)
入館料 大人210円 小中学生100円
お問い合わせ 美並ふるさと館 (☎79-3440)
日本まん真ん中センター (☎79-3700)

